

群 教 セ	F09 - 01
	平18.232集

# 知的障害のある児童の安心感・安全感を 高める接し方の工夫

— 教師と保護者を対象としたセミナーの実施と  
日常的な振り返りを通して —

長期研修員Ⅱ 石田 百合子

## 《研究の概要》

本研究は、知的障害のある児童が、安心感・安全感をもって活動するために、教師と保護者を支援する研究である。児童の安心感・安全感を高めるためには保護者や教師の「心の安定」が不可欠ととらえた。そこで、職員研修で「保護者支援セミナー」を、保護者には「子育て支援セミナー」を実施した。また、日常的に「チェックリスト」を通して教師と保護者が児童との接し方を振り返り、工夫することの有効性を明らかにした。

## I 研究の目的

群馬県教育委員会では「平成18年度 学校教育の指針」特別支援教育の配慮事項の中で「児童の行動をよく観察して心情の理解に努め、情緒の安定を図りながら指導に当たるようにしよう。」としている。

知的障害養護学校の児童の気になる行動は、感情の発達に関係していることが多い。児童の成長にとって感情面を発達させていくことは、心の安定を高め、意欲、集中力、持続力、コミュニケーション能力の向上につながっていく。その感情の発達の基盤になるのが心理面と、身体面で共に危険から守られていると感じられる安心感・安全感である（2004. 大河原）。

児童の安心感・安全感を高めるためには、教師や保護者が安定した心と態度で児童に接することが重要である。そこで、今回の研究ではセミナーの実施と「振り返りチェックリスト」を活用し、教師と保護者に対する支援を行うことで、児童の安心感・安全感を高めていく。

## II 知的障害養護学校における現状

### 1 児童たちの様子

知的障害養護学校には自閉症や、ダウン症など様々な障害のある児童が在籍しており、児童が新しいことに挑戦し、できるようになると教室の中は喜びの声に包まれる。



図1 気になる児童の様子

しかし、障害によっては、その場にいられなくなったり、こだわりが強くなったりする場合があります。

また、周りの人と言語によるコミュニケーションをとるのが難しい児童も多く、自分の気持ちや要求を理解してもらえず、いらいらすることもあ。刺激に対し、感受性が強く敏感な児童は、不安や緊張が高まりやすい。

そのため、知的障害養護学校の児童にとって安心感・安全感を高めることは非常に重要であるということが分かる。

## 2 教師の様子

教師は、一学級に複数配置されることが多く、チームティーチングを行うことが多い。そのため教師同士で話し合い、協力し合うことで児童に対し一貫した接し方ができるように努めている。

養護学校の児童の場合、身辺処理や安全面など教師や保護者の支援を受けることが多い。そのため、教師と保護者の連携が不可欠である。

しかし、保護者への支援についてどのようにしたらよいか悩んでいる教師の話聞くことがある。そこで、以下の記述式アンケートを行った。

### 質問1→保護者支援で困っていること

- ・児童のためにぜひ家庭で取り組んでもらいたいことや協力してほしいことを伝えてもなかなかこちらの思いが伝わらない。

アンケートの結果から教師は保護者に対し自分の思いを伝え、理解してもらい、実践してほしいと思っていることが分かる。しかし、その思いが伝わらないことで悩んでいる姿が見えてくる。

では、具体的に教師は保護者と接するとき、どのようなことを心がけているのだろうか。

### 質問2→保護者と接するとき心がけていること

- ・相手の気持ちや意見にまずは共感、受容の対応をすること。
- ・家庭環境を考慮し、あまり無理なことは言わないようにする。できるだけ保護者の抱えている問題を聞き、共感する態度を示す。

アンケートに答えた教師のほとんどが保護者の気持ちを受容・共感すると述べているのが印象的だった。中には保護者の生活環境などを考え、実態に合った支援方法を提案することが重要と考える教師もいた。

しかし、今回のアンケート結果は、教師の思いを保護者に伝え、実際の家庭生活の中で実践してもらうことの難しさを浮き彫りにしたと言える。

これは、教師の保護者支援に関する課題と言える。

## 3 保護者の様子

養護学校の保護者にとって自分の子どもの障害を受容することは子育てをする上で重要なことで

ある。しかし、実際には日々の生活の中で、様々な支援が必要であり、保護者の思うようにならない場面も多く、障害を受け入れるには相当の時間を必要とする。そこで、現在の保護者の状況を理解するために以下の記述式アンケートを行った。

### 質問1→子育てで困っていること

- ・母親より体力があり、突然の行動についていけないことがある。突然パニックになり、大声で泣き出したりしてとても困る。
- ・感情のコントロールができないため、気にいらないとしばらく怒っていることがある。その理由が分からず、戸惑うことがある。
- ・一緒に買い物や公園などに遊びに行ったとき、自分の思いが通らないとだだをこねることがあり困る。

アンケートの結果から、保護者は児童が怒ったり、パニックになったりすることに悩んでいることが分かる。

このような現実の中で保護者はどのようなことを心がけ子育てを行っているのだろうか。

### 質問2→児童と接するとき心がけていること

- ・約束を守らせるように一つ一つだが、言い聞かせるようにしている。わがままを聞かないようにしている。
- ・なるべく児童の気持ちになって何がどうしたのか少しでも理解できるようにじっくり話を聞くようにしている。
- ・兄弟にはつい厳しく怒ってしまうが、本人にはなるべく穏やかに分かりやすく、なぜいけないのか説明するようにしている。児童に混乱しないように事前によく言い聞かせてから行動する。

上記の2つのアンケートの結果から、保護者は児童への接し方を工夫をしていることが分かる。しかし、児童自身感情のコントロールが難しいため、激しい行動になってしまうこともある。そんなとき、保護者はどのように対処したらよいか分からず困っている姿が見えてきた。

### Ⅲ 児童の安心感・安全感を育てるために

児童の安心感・安全感はどのようにすれば育つのだろうか。

日常の接し方の中で教師や保護者が穏やかに児童の実態に合った支援を行っているると次第に児童の安心感・安全感が高まり、落ち着いた行動ができるようになっていく。

そこで、教師と保護者の心の安定を図り、より児童に合った支援をするためにどのようなことが有効か考えてみた。

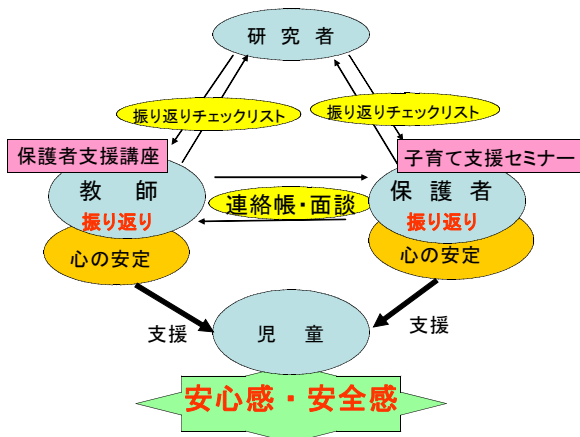


図2 児童の安心感・安全感を高めるための構想図

その結果教師や保護者が自分自身に目を向け、自分自身を振り返る活動を通して、児童への接し方を工夫していくことが大切だという結論に達した。

振り返りは、学んだことを日常生活に生かしていく上で大きな力となる（2006.群馬県総合教育センター）。しかし、日常生活の中で、振り返りを行うことは難しいので、支援が必要になる。そこで、教師と保護者に対し、思いを語り合い、必要なことを学び、それまでの児童への接し方を振り返るようにセミナーを実施した。さらに、日常的な振り返りとして、小学部の低・中・高学年から1事例ずつを取り上げ、その担任と保護者に「振り返りチェックリスト」の記入を提案した。

#### 1 教師に対して

##### (1) 職員研修「保護者支援セミナー」について

研究者は、前出の教師へのアンケート結果から保護者との連携を進める上で、教師が保護者に適切な支援を行うことが重要だと考えた。そのためには、教師が簡単なカウンセリングの技法を学ん

だり、ロールプレイやワークにより保護者の気持ちを擬似的に体験したりすることが重要である。同時に具体的に保護者への言葉がけを検討することで、今までの保護者への対応について振り返り、今後どうしたらよいか気付くことができる。それと合わせ、教師の悩みや保護者へのよりよい支援の方法を仲間と語り合うことが教師の心の安定を高めるために有効と考えた。

そこで、夏休みに「職員研修「保護者支援セミナー」」を行った。

#### ア 主な内容と振り返り

**主な内容**

テーマと主な流れ

「信頼関係を高める保護者への言葉がけ」

- ・保護者との関わりについて語り合う
- ・自分も相手も大切にする表現を学ぶ
- ・教師役と保護者役による面談場面の寸劇により保護者の気持ちを体験する
- ・保護者との関わり方をまとめる
- ・セミナーの振り返り

《詳細は資料編 資料1 参照》

保護者に教師の思いが届くために

保護者の大変さや気持ちを受け止める

教師と保護者は共に子どもの成長を願っている同志であることを認識する

保護者のできる範囲のことを具体的に提案する

子どもの可能性について前向きに伝える

図3 保護者支援セミナーのポイント

振り返り（参加者14名） 職員研修「保護者支援セミナー」について	
・セミナーに参加してよかった	100%
・セミナーで学んだことを、保護者と接する際生かしたい。	100%
・セミナーで学んだことを、保護者と接するとき実際にできる。	50% 少 50%
<b>感 想</b>	

- ・人は共感してもらったり、話を聞いてもらったりするとすごくスッキリする！
- ・保護者の対応の仕方、相手の気持ちを受け止めてみることの大切さを知った。
- ・ロールプレイでは、自分の考えた言葉がけを保護者として聞くというのがとても良かった。また、グループで考えたことによりほかの先生方の言葉がけを聞くことができ、とても勉強になった。
- ・自分と同じように保護者の方も具体的な提案を待っていることが分かった。

今回のように具体的な場面を想定し、教師が保護者の役を演じることは、保護者理解を深めるために有効であったと考えられる。

### イ 職員研修「保護者支援セミナー」後の成果

保護者支援セミナーで学んだことがその後どのように生かされたのだろうか。セミナーから4ヶ月ほどして、参加者にセミナーの後実践したことについて記述式アンケートを行った。その結果は以下のとおりである。

#### 質問→保護者支援セミナー後、実践したこと

- ・保護者の話に耳を傾けるようになった。
- ・保護者の考えを受け入れると言う態度で保護者に対応した。
- ・個人面談の時教師と保護者が真正面にならないように座る位置を工夫した。
- ・相づちを打ちながら聞くようにした。
- ・保護者の感情を受容し、認めた。

上記のことから職員研修「保護者支援セミナー」を行ったことで、教師が、保護者と話すときにカウンセリングの技法を使うようになったことが分かる。そして、その結果以前より面談がスムーズにいったとの話を聞くことができた。

## (2) 日常的振り返りについて

### ア 「振り返りチェックリスト」について

期間は9月18日～11月24日

「振り返りチェックリスト」は面談の内容を受け、以下のことに留意した。

- 児童の実態が一人一人大きく異なることから個人別の項目も記入できるようにした。
- 教師や保護者が負担に感じず手軽に振り返りをできるようにした。

以上のことから共通の振り返り項目と個別の振

り返り項目を設定することにした。個別の項目については空欄にし、教師や保護者とのやりとりの中で決定していく様式にした。また、教師の振り返りを内面に向けるため「児童に感謝すること」「児童の気持ちをくんであげたこと」「児童に申し訳ないと感じたこと」という項目を設定した。

表1 教師の「振り返りチェックリスト」

教師の振り返りチェックリスト 児童名 \_\_\_\_\_

下記の項目についてそれぞれの番号の欄に○をつけて回答してください。  
通り期間 平成 年 月 日～ 月 日

チェック項目	行わなかった		時どき行った		よく行った	
	1	2	3	4	5	
児童に対して	1	児童の思いを受け止めるように努めた				
	2	児童のできることについては、できるまで見守った				
	3	児童のよいところを見つめるように心がけた				
	4	児童の気になる行動に対し、冷静に対応するように心がけた				
	5*	〔例〕児童が一人で活動する場面を増やすように心がけた				
その他に対して	1	保護者に対し児童の頑張ったところ・成長したところを積極的に伝えた				
	2	保護者の気持ちを受容するように努めた				
	3	支援にあたり他の教師と共通理解を回った				
	4	他の教師と共通理解した内容を実践につなげた				
	5*	〔例〕他の教師に自分の思いが伝わるように努めた				
・児童の様子について気づいたこと						
・児童に感謝すること						
・児童の気持ちをくんであげたこと						
・児童に申し訳ないと感じたこと						

※ 5\* このチェック項目は欄に応じた内容を、教師や保護者と相談して記入した。

### 《資料編 資料2 参照》

「振り返りチェックリスト」に教師が毎週1回記入したものを研究者が確認し、コメントを添え、次週の目当てとなるようにした。

「振り返りチェックリスト」の、「行わなかった」を1点「よく行った」を5点とし、毎週の平均を出した。

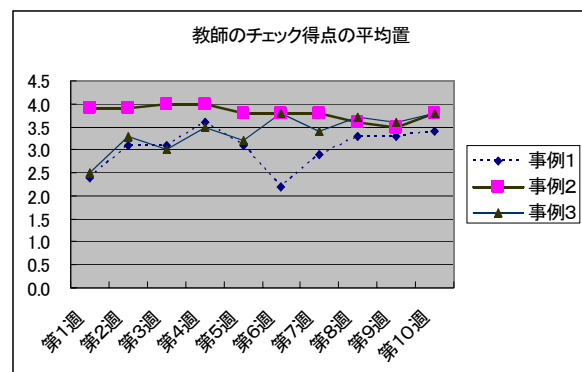


図4 教師のチェック得点の平均値の変容

「振り返りチェックリスト」の得点が継続的に上がるとか逆に下がることはなかった。チェックするときの教師の気持ちやそのときの児童の様子に大きく左右されると考える。

チェックリストは保育者の『主観』でつけてよい。そうすることで保育者は自分の思いや保育を改めて見つめ直すことができる。そして、それが保育の改善につながる(2006. 本郷)。

ここで、重要なことは、チェック項目の値ではなく、あくまでも振り返るという行為に意味があるということである。

では、この振り返りにより、事例の中でどのような変化があったのだろうか。

### 対象児の変容

#### \*事例1 (Aの場合)

教師ができるだけ、Aが持っているものを自分で放すのを待ったところ、Aは時間をかけずに持っているものを教師に渡せるようになった。

#### \*事例2 (Bの場合)

副担任が変わっても、担任との連携がうまくいき、対象児がスムーズに、新しい副担任に馴れることができた。

#### \*事例3 (Cの場合)

Cの気持ちを理解するために観察を行い、よいところを積極的に認めたことで、教師との間に会話が成り立つようになった。

次に教師は振り返りチェックリストを記入し、どのようなことを感じたのだろうか。

### 教師の感想

- ・振り返りを週に1度することにより、自分の支援の課題が見えるようになった。
- ・次週の接し方の目標を具体的に見付けることができた。
- ・児童の心に添った接し方をすることで児童が変わることがよく分かった。
- ・今まで意識して児童に感謝するということはなかった。感謝に関する項目を記入することで、児童の良いところに目を向けられるようになった。
- ・連絡帳を活用し、もっと保護者の気持ちにも答えなければならぬと感じた。

## 2 保護者に対して

### (1) 子育て支援セミナーについて

保護者と接していると低学年では障害を受容できない保護者も、高学年になると障害を受容できるようになっていくことが分かる。これはほかの保護者と接し、情報を共有し、思いを語り合うことが要因として考えられる。

研究者は保護者に対し、児童との基本的な接し方を学ぶことと具体的な場面を想定してどのような接し方をすればよいのか考えるワークの必要性を感じた。さらに、子育てに関する悩みを打ち明けたり、ほかの保護者の子育てについて情報を得たりすることが、保護者の心の安定感を高めるのに有効と考えた。

#### ア 第1回子育て支援セミナーについて

##### (7) 主な内容と振り返り

### 主な内容

#### テーマと主な流れ

「児童の気持ちをどのように理解し、接していったらよいか考える」

- ・保護者の思いの語り合い
- ・前向きな子育てについて〈講義形式〉
- ・具体的な子育て場面における接し方  
(ワーク)
- ・セミナーの振り返り

《詳細は資料編 資料3 参照》

### 子どもと接する時のあいことば

お	怒らない	▲
し	(子どもの力を)信じる	
り	(子どもの行動に)理由あり	
ほ	褒める	😊
ま	待つ	❤️

図5 第1回子育て支援セミナーのポイント

### 振り返り (参加者7名) 第1回保護者支援セミナーについて

・セミナーに参加してよかった	100%
・セミナーで学んだことを、子どもと接する際生かせる	100%

### 感想

- ・皆さんが同じようなことを悩みながら日々過ごしていることを知り、自分だけではないんだなという気持ちになりました。
- ・先生やお母さんたちの話を聞いて、いろいろな視点から子どもと接して理解していくことが大切だなと思いました。
- ・セミナーで学んだことを今日から子どもに接するときにやってみようと思う。

参加者全員が参加して良かったと答えており、このようなセミナーを保護者も望んでいることが分かる。

第1回子育て支援セミナーの感想から、ほかの保護者と話せたことで勉強になったと書いた保護者が多かった。第2回子育て支援セミナーでは保護者同士の語り合いの時間を多く取る必要性を感じた。

#### イ 第2回子育て支援セミナーについて

##### (7) 主な内容と振り返り

### 主な内容

#### テーマと主な流れ

「子育てについて大いに語り、  
自分の子育てを振り返ろう」

- ・第1回子育てセミナーの復習
- ・保護者同士で子育てに関することについてじっくり語り合う
- ・具体的な児童との接し方場面のロールプレイを行い、体験的に接し方について学ぶ
- ・セミナーの振り返り

### 振り返り（参加者13名）

#### 第2回子育て支援セミナーについて

・セミナーに参加してよかった	100%
・セミナーで学んだことを、児童と接する際生かせる。	100%
・自分の思いを十分話せた	62%

### 感想

- ・ロールプレイをするとそれぞれの立場で考え方が大分違うことに気付かされた。ふだんも自分の思ったこと、考えたことを子どもたちに押しつけていることが多いと反省した。日々振り返ることってなかなかしないので、良い機会だったと思う。
- ・前回と違いお母さん同士で話す時間が多く、子どもの様子をお互いに話し、自分と同じ部分、また自分と違う部分を知ることができ、とても良かった。ふだんはあまり一緒にならない他学年のお母さん方とも話ができて、とても勉強になった。またこういう交流の場を設けて欲しい。
- ・親がゆとりをもって児童と接することが大切だと思った。

第2回の子育て支援セミナーでは、保護者同士で話す時間を十分に取ったつもりだったが、それでも「十分話せた。」と答えた保護者は62%だった。このことから保護者は「語る場」を切望していることが分かった。

養護学校の保護者の場合、児童から目を離すことが難しいため、保護者同士で時間をとってゆっくり話す機会が少ない。しかし、障害を受容したり、前向きに子育てをするためには、自分の思いを共感的に聞いてもらいながら「大変なのは自分だけでない。」「大変な状況をいろいろな工夫により克服している仲間がいる。」ということを実感することが必要である。

さらに、児童の心の理解や基本的な子育てについての知識を得ることで保護者の心の安定を高めることができるのではないだろうか。

#### ウ 子育て支援セミナーのその後の成果

子育て支援セミナーで学んだことがその後どのように生かされたのだろうか。セミナーから2ヶ

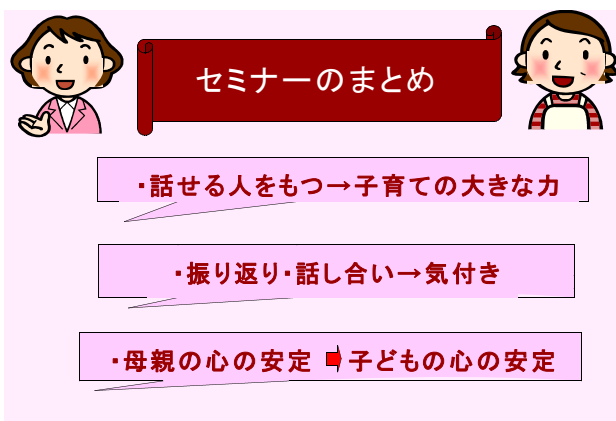


図6 第2回子育てセミナーのポイント

月後に、参加者にセミナーの後、実践したことについて記述式のアンケートを行った。

**質問** → **セミナーの後実践したこと**

- ・児童の行動理由を考えるようになった。
- ・言葉でいっぱい褒めるようにした。
- ・あまり子どもを叱ったり怒ったりしなくなった。
- ・兄弟に対しても気持ちを考え、接するようになった。

上記の実践により児童にどんな変化があったか保護者に問うと「すてきな笑顔が増えた。」「子どもとの会話が増えた。」などの回答を得ることができた。

**(2) 日常的な振り返りについて**

保護者の「振り返りチェックリスト」でも、個別に記入できるよう空欄を設けた。また、簡単に記入できるようにした。下の部分に個別に家庭での具体的な手だてが書き込める様式にした。

期間は9月18日～11月26日

保護者は週に一度振り返りチェックリストに記入し、研究者に提出した。研究者は保護者の工夫した接し方や気づきについて認めるコメントや次の手だてに対する提案を行った。

**表2 保護者の「振り返りチェックリスト」**

下記の項目についてそれぞれの番号の欄に○をつけて回答してください。  
振り返り期間 平成18年 月 日～ 月 日

お子さんの接し方		行わなかった	時どき行った	よく行った		
		1	2	3	4	5
配慮・心がけ	1	おさんの思いを受け止めようとした				
	2	おさんのできることにできるまで見守った				
	3	おさんのよいところを見つけるように心がけた				
	4	おさんを責めないよう心がけた				
手だてに関して	1	(例)おさんが自分で靴を履くまで待つようにした				
	2	(例)「聞く力」をつけるためにおさんの発した音をすぐに遮るようにした				
工夫した接し方		気づいたこと				

\*「手だてに関して」の欄は個人の課題に応じて、教師や保護者と相談し記入した。

《資料編 資料4 参照》

**保護者の変容**

- ・子どもの気になる行動を叱るのではなく、冷静に受け止め、どのようにするとその行動が減るのか考えられるようになった。
- ・研究者から家庭での手伝いについて具体的な提案をした。すると保護者は、子どもに合った手伝いを見付け実践し、我が子の可能性に気付いた。
- ・保護者がほかの兄弟の話にも耳を傾けるようになり、兄弟の思いを知ることができた。その結果兄弟が以前より協力的になった。

**保護者の感想**

- ・毎日子どもが帰ってくると慌ただしく、接し方などもつい適当になっていたが振り返りチェックリストを書くようになってから1週間の子どもの様子を振り返り、子どもの行動の意味や少しの成長にも気付くことができた。また、自分の接し方も振り返ることができた。心にゆとりがもてた。
- ・お手伝いという項目は無理なことと思い、子どもにはさせていなかったが、実際にはできることもあることが発見できてとても嬉しかった。何かきっかけがないとなかなか先に進むことのできない私と子どもの関係にとっても良い時間を与えてもらい感謝している。

日常生活に追われ、保護者が子育てについて振り返ることはなかなか難しい現実が見えてきた。しかし、「振り返りチェックリスト」を付けるようになってからのできごとや感想から振り返ることで、確実に保護者が心を安定させて児童に対応できるようになってきたことが読み取れる。

**IV 児童の姿の変容について**

児童の変容については、児童一人一人の実態に合った「子どもの姿アンケート」を研究の開始と終了時期に教師と保護者に実施し、児童の行動がどのように変容したか見ることにした。記入の仕方は5段階評価で、良い結果ほど数値が高くなるようにした。

以下の表に2回分の結果をまとめた。

表3 事例3 子どもの姿アンケート結果(教師用)

○は9月22日、◎は11月27日実施

領域	番号	子どもの様子	できない		時どきできる		常にできる
			1	2	3	4	5
教師との関係	1	教師に自分から話しかけてくる					○ ◎
	2	教師に自分から挨拶をすることができる	○ ◎				
	3	思うことを、言語を使って伝えることができる			○ ◎		
	4	やりたいことを制止されたとき、指示を聞き入れられる			○	◎	
他児との関係	1	他児を意識することができる		○			◎
	2	他児に話しかけることができる	○ ◎				
	3	健全児と手をつなぐことができる			○ ◎		
	4	学級の友だちと手をつなぐことができる	○		◎		
集団場面での様子	1	集団の中でも落ち着いていられる			○		◎
	2	友だちと声を合わせて歌を歌うことができる				○	◎
	3	集団と一緒に移動しようとする			○	◎	
	4	集団と一緒にラジオ体操をすることができる		○			◎
	5	集団と一緒に本の読み聞かせを視聴することができる		○ ◎			
生活場面での様子	1	玄関での靴の履き替えスムーズである		○			◎
	2	いろいろな食品を食べられる			○		◎
	3	遊ばずに食事をすることができる				○	◎
	4	朝と帰りの活動で荷物の出し入れができる			○ ◎		
	5	個別の学習に取り組める			○		◎
遊び場面での様子	1	自分の名前を呼ばれて振り向くことができる		○			◎
	2	人のやることを見て模倣できる			○	◎	
	3	自分でやりたいことを見つけることができる					○ ◎
	4	好きな物に対するこだわりをコントロールできる			○	◎	
	5	やっていることを終了時間になると終わりにすることができる			○	◎	

《実際に使用した「子どもの姿アンケート」用紙については資料編・資料5を参照》

### 1 学校での様子

学校での変容を知るために「教師との関係」、「他児との関係」、「集団での様子」、「生活の様

子」、「遊びの様子」の領域ごとに項目を作成した。図7は、アンケートの項目を点数化し、9月と12月の調査結果の領域別平均得点をレーダー



チャートで表したものである。

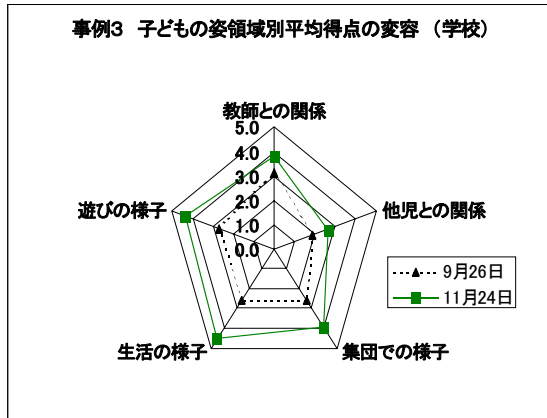


図7 学校での領域別平均得点の変容(事例3)  
《他事例については資料編 資料6 参照》

図7は事例3のものであるが、特に「生活の様子」「遊びの様子」で良い変化が見られたことが分かる。ほかの事例でもほとんどの項目で、数値が上がっている。

児童は大人との関係ができてくると安心していろいろなことに取り組めるようになる。学校では教師との関係が良くなったことで、生活や遊びの面でも適応行動が増えたと言える。

## 2 家庭での様子

家庭での様子については「母親との関係」「兄弟との関係」「家族と一緒に様子」「生活の様子」「遊びの様子」の領域ごとに項目を作成し、アンケートを行った。図8は、その領域別平均得点をレーダーチャートで表したものである。

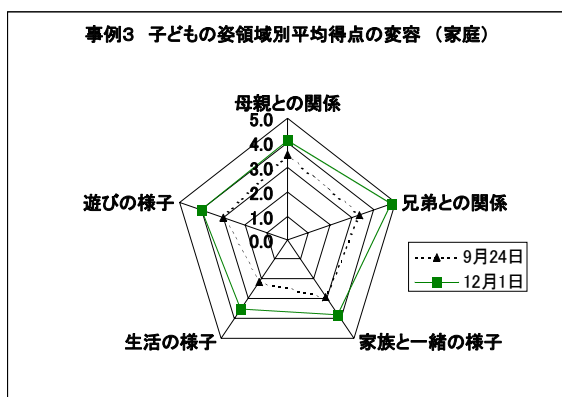


図8 家庭での領域別平均得点の変容(事例3)  
《他事例については資料編 資料6 参照》

図8も事例3のものであるが、この図から対象児と母親・兄弟との関係が良くなったことで、生活

場面や遊び場面での成長が見られたと考えられる。

ほかの事例についても母親との関係が良くなってきたことで、家族とも落ち着いて過ごせるようになってきたことが分かる。以上のことから家庭でも保護者が振り返ることにより、子どもの心に添った接し方ができるようになり、子どもの安心感・安全感が高まったと言える。

## V 研究を通しての提言

今回の実践を通して具体的に学校でどのようなことができるのだろうか。養護学校のことを想定し、実際に学校で使えるように、校務分掌に照らし合わせて考えてみた。

教師と保護者の心の安定が児童の支援につながるように次のことを提言したい。

### 1 教育相談係への提言

#### (1) 教師に対する支援

養護学校の場合保護者の児童への影響力が大きいことを考えると、保護者にどのような支援を行うかが重要なポイントとなる。そこで、教師に対し、保護者との間に信頼関係を築くためのセミナーを開催すると良いのではないだろうか。教師が安心して自分の思いを語り、具体的に保護者との関わり方を考えることで、それまでの自分の姿に気づき、よりよい保護者との関係作りにつながっていく。

#### (2) 保護者に対する支援

保護者の子育てについて学びたいという思いを受け止め、児童が学校で勉強をしている時間帯にセミナーが行われれば、保護者は安心して参加することが可能になる。また、教育相談係は相談活動により、その学校の児童の問題点や傾向を把握している。そこで、その学校の実情に合わせたセミナーを開くことで、保護者はその内容を実生活の中で活用しやすくなる。

### 2 学年主任への提言

学年会で、児童の様子など共通理解を図る場面があるが、そのときに教師が振り返りを行ってはどうだろうか。簡単なチェックリストを用いると振り返りの目当てができる。基本的な事項を学年で振り返ることで、教師同士で様々なことに気づき、幅広い児童への接し方の工夫につながってい

く。

### 3 学級担任への提言

個別指導計画のための個人面談のとき、単に児童の様子や目標について話し合うのではなく、教師又は保護者がどのような気持ちや態度で児童に接してきたか振り返ることで、面談が充実したものになると思う。その際教師は保護者の話に耳を傾け、共感するなど、カウンセリング技法の基本を学んでおくと保護者も安心して面談を受けられる。

連絡帳に簡単な保護者用のチェックリストを貼付し、1週間に1度ずつ保護者に振り返りをしてもらってはどうか。振り返りに簡単なコメントを付けることで、保護者は教師に認められ、支えられていると感じる。その結果教師と保護者の信頼関係が高まり、保護者の心の安定につながっていく。

## VI まとめと今後の課題

### 1 まとめ

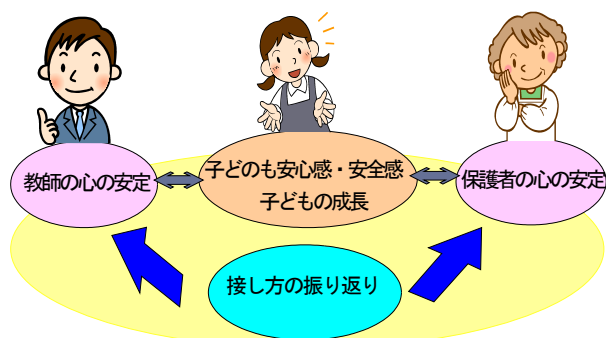


図9 研究のまとめ

今回の研究は、知的障害養護学校の児童が落ち着いて過ごすためにどんなことができるか模索したものである。

教師と保護者はセミナーで児童との接し方の基本を学び、振り返りチェックリストにより定期的に目当てをもって児童への接し方を振り返った。

保護者は子育てに関して学びたいという意欲を強くもっているため、セミナーを開設することは保護者の要望にこたえることになり、学校に対する信頼感も高まる。

児童は安心感・安全感が高まると落ち着きが出てくる。さらに、笑顔が増えたり、友達との関係ができたり、恐怖心からできなかった壁を乗り越

えられるようになったり、生き生きとした様子を見せるようになる。

教師や保護者はその様子に励まされ、勇気づけられ、児童をいとおしく感じるようになる。決して教師や保護者が一方的に児童に対して、影響を与えるのではなく、児童も教師や保護者に大きな影響を与えているのである。互いの関係をよくするために、教師や保護者は自分自身の児童への接し方を振り返る機会が必要なのである。

### 2 今後の課題

今回の研究では職員研修「保護者支援セミナー」を1回、保護者向けに「子育て支援セミナー」を2回行ったが、回を重ねるごとに参加者の気付きも深まった。そこで、セミナーを年間行事として位置づけていくことが課題である。

また、今回は小学部を対象に研究を行ったが、保護者の語り合いの幅を広げるために、学校全体を対象にしたセミナーを開く必要がある。

#### Web検索キーワード

【教育相談 知的障害 安心感・安全感  
セミナー 振り返りチェックリスト】

〈参考文献〉

- ・本郷 一夫 著  
『保育の場における『気になる』児童の理解と対応』 ブレーン出版 (2006)
- ・本郷 一夫・長崎 勤 編  
『特別支援教育における臨床発達心理学的アプローチ』 ミネルヴァ書房 (2006)
- ・『月刊学校教育相談』編集部 編  
『教育相談に生かせる15の心理療法』 本の森出版 (2004)
- ・群馬総合教育センター  
『体験型子育て支援プログラム15』 図書文化 (2006)
- ・大河原 美以 著  
『ちゃんと泣ける子に育てよう』 金子書房 (2006)
- ・海野 健 著  
『ママがする自閉症児の家庭療育』 HACの会 (2006)

(担当指導主事 加藤 仁子)